

第 52 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

開催記録

1 開催概要

- 日時：令和7年2月5日（水）10：00～12：00
- 場所：JR東日本 現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

| | |
|-------------------|---|
| 委員長 | ・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授） |
| 委員 | ・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー） |
| オブザーバー | ・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区 街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・JR東日本コンサルタンツ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部 |
| 事務局 東日本旅客鉄道(株) | ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部 |
| サポート | ・パシフィックコンサルタンツ株式会社 |

■ 当日配付資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第51回委員会（1/8）部会①議事録案
- ・ 資料2：第51回委員会（1/8）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1：調査結果について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 52 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 51 回委員会 (1/8) 部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 51 回委員会 (1/8) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 52 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 調査結果について

- 資料 1 について説明する。(港区)

<説明概要>

- 緑色で示す施工の可否について、ボーリング No.39、KP27-2 の報告をもって意見をいただきたい。
- 資料 1-2 に、KP27-2 (No.12) の箇所の結果を示す。No.10・11・12 のライナー掘削調査の結果を以前報告しており、加工木と呼ぶ木材を確認していた。第 44 回委員会でライナー内の加工木を切り取って取り上げるとの判断をいただいております、今回はその報告となる。
- 加工木 C と D の間から、長さ 50cm 程度の杭を取り出した。
- No.11 のライナーから、加工木 B と長さ 1m の杭を取り出した。この杭は角材であり、状態は新しい材という印象である。
- 加工木の下から瓦や獣骨など 4 点の遺物を検出したが、その中に近代の土管の破片が見つかった。
- これらの状況を踏まえて、今後この加工木が何か所見をまとめていきたい。
- KP27-2 (No.12) は加工木の取り上げが完了して、その下位から別の遺構も確認されず、調査を終了している。

- 資料 1-4 に、ボーリング調査の結果を示す。No.39 の結果は、隣接する No.33 や KP27-2 地点のボーリング調査の結果と概ね類似する状況であった。
- 検出した木材は新しい印象とのことだが、存在する深さが非常に深いので判断が難しい。施工は可と考えて良いと思う。ボーリング調査については、木製・石製の構造物が確認されておらず、層序もこれまでの確認と同様であるため、この部分の仮土留の施工を可として良いと思う。(委員長)
 - ← 異議なし。(委員一同)
 - この部分の施工を可と判断する。(委員長)

(3) その他

<部会①・部会②・部会③終了後>

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
 - ← 部会①の調査まとめに感謝する。部会②の記録保存への方針についてや調査結果の報告を承った。(文化庁)
 - ← 5・6街区の調査成果のまとめについて、港区教育委員会の作業に感謝する。次回以降の文化財的な価値・評価について引き続きお願いしたい。(東京都)
 - ← 見学会について、終了後にも取材を受けたりしている。適宜報告する。引き続き協力をお願いしたい。(港区)

(4) 閉会

- 次回委員会は3月5日(水)10時00分より、会場はTKP ガーデンシティプレミアム品川を予定する。4月の委員会は4月9日(水)を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第52回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 2つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査結果について

- (港区) 資料1について説明する。資料1-1で、仮橋脚部のボーリング調査の進捗状況を説明する。緑色で示す施工の可否について、ボーリングNo.39、KP27-2の報告をもって意見をいただきたい。ボーリングNo.39は初めての報告となり、ボーリングNo.33は過去に委員会で報告している。仮橋脚部については、KP27-2の結果を報告する。資料1-2に、KP27-2 (No.12)の箇所の結果を示す。No.10・11・12のライナー掘削調査の結果を以前報告しており、加工木と呼ぶ木材を確認していた。KP27-2はNo.12と同一箇所である。資料1-3に、第44回委員会の報告を再掲する。第44回委員会でライナー内の加工木を切り取って取り上げるとの判断をいただいております。今回はその報告となる。円形ライナー内の緑色に示す範囲が、取り上げた加工木の範囲を示している。加工木CとDの間から、長さ50cm程度の杭を取り出した。一方、No.11のライナーから、加工木Bと長さ1mの杭を取り出した。この杭は角材であり、状態は新しい材という印象である。加工木の下から瓦や獣骨など4点の遺物を検出したが、その

中に近代の土管の破片が見つかった。これらの状況を踏まえて、今後この加工木が何か所見をまとめていきたい。KP27-2 (No.12) では加工木を取り上げ、その下位に遺構がないことを深針で確認して調査を終了した。資料 1-4 に、ボーリング調査の結果を示す。No.39 の結果は、隣接する No.33 や KP27-2 地点のボーリング調査の結果と概ね類似する状況であった。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 検出した木材は新しい印象とのことだが、存在する深さが非常に深いので判断が難しい。いずれにしても施工は可と考えて良いと思う。ボーリング調査については、木製・石製の構造物が確認されておらず、層序もこれまでの確認と同様であるため、この部分の仮土留の施工を可として良いと思う。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) ではこの部分の施工を可と判断する。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

(3) その他

(委員長) その他は何かあるか。

(委員長) 特になければ部会③を閉会する。

<部会①・部会②・部会③終了後>

(委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁) 部会①の港区の調査のまとめに感謝する。部会②の記録保存への方針についてや調査結果の報告を承った。

(東京都) 5・6街区の調査成果のまとめについて、港区の作業に感謝する。次回以降の文化財的な価値・評価について引き続きお願いしたい。

(港区) 見学会について、終了後にも取材を受けたりしている。適宜報告する。引き続き協力をお願いしたい。

(4) 閉会

(事務局) 次回の定例委員会は、3月5日(水) 10時00分より、会場はTKP ガーデンシティプレミアム品川を予定する。4月の委員会については、4月9日(水)を予定する。お忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以上